

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和5年9月7日(木)

読書を通じた学び

私たちが大切にしているのは、読書を通しての学びです。読書は、知識を得るだけでなく、想像力を養い、感情を豊かにしてくれます。読書を通じて、自分自身と向き合い、成長することができます。

① 読書を楽しむための工夫

まずは「文章を味わう」ことが大切です。読書は、ただ文字を読むだけでなく、登場人物の心情や、作者の意図を読み取る必要があります。

② 好みのジャンルを選ぶ

興味のあるジャンルを選んで読むことで、読書が楽しくなります。無理に読む必要はありません。

③ 読書タイムを設ける

読書時間のスケジュールは、効果的です。私は毎朝の10分です。

④ 隙間時間を利用する

通学・通勤など移動の時間や、休みの待ち時間を使って本を読むことで、不規則な生活でも読書の時間を確保できます。

⑤ 本を手に取る習慣を

人間は眼で見るだけでなく、手で取ることで、より深く理解することができます。誰にでもできることです。

⑥ ノルマは読書の

週1冊…辛くありません。読書を楽しむことが大切です。

⑦ 読書を楽しむ

通読より格好で入手でき、読後は思い返してあげると、読書の楽しさを引き出すことができます。

本格的な秋に向けて、読書に親しむのも一興です。私も読んでいない本が読書として部屋を占拠しています。今年の秋は少し読書の時間を増やしたいのです。

働き方改革とスキルアップ

私は教師としてのスキルアップを図るために、武者羅に仕事をしました。自分自身を磨き、スキルアップを図ることは、自分自身の成長につながります。

働き方改革は、社会人としてのスキルを上げようとする時期が必ずあります。人にもよりますが、経験の少ない若者が道半ばは暗闇ながら悩まながら、手探りで前進する時期は、微塵も後悔していません。

しかしながら、仕事として自分のパフォーマンスを維持しているだけで、結果が期待されるものもありません。現状は情報過多で多くのリソースから結果を提示できないことも多い。この状況下、結果の提示者が被提示者が互いにストレスを感じるようになって、相半の思いや願望、折衝の多い状況になることが、弊害を生じて無用のトラブルを招く。

働き方改革が叫ばれて久しい。あらゆる職場組織において、超過勤務も無用なストレスによるメンタルヘルスの悪化が増加している。それでも、サービスの提供を続ける側は何を期待しているのだろうか。私は教師の元気が「思」ふ。必要としているものは、人と接する仕事に就く以上、最低限必要な素養だと思ふ。私は教師に「思」ふ。終極的に「思」ふ。健康がベースとして必要だと確信している。スキルアップのために努力するのは良いが、それを体で支える、子供達や保護者としての向き合い方、それは本末転倒だ。だから、私には休むことも必要なのではないかと思ふようになった。それは、教師としてのスキルアップは、取り組むのか。働き方改革とは何者か。私は「思」ふ。誰かの生活から何を学ばなければならないのか。

誰もが仕事のスキルアップを図るために、多くの事にチャレンジしている。お互いに競争意識で毎日を通して、そのスキルアップを図るために、頑張り続けている。その姿勢にリスペクトし、誇りを感じる人が大勢いる。

シリーズ「自分を語る」#114

その年も「キャンパス・ナイトハイ」を満ちた実地、子供達、保護者の皆さんと一緒に、掛け替えのない時間を過ごしました。ただ、その年の学級集まりは、何かと忙しい運動が苦しいという、持久力が無いという、強さを示す子供達の背中を押しながら、場面も多かった年でした。

夏休みが終わると、私の校務である研究の仕事が待っています。研究発表が十一月と考えると、待つ準備を進めなければなりません。夏休みは何度やなく校長室に通い、数日間の校長先生自宅での合宿の様な業務、大変勉強になった時間でした。研究発表の当日、もう「なるほど」になる「いや」なるものしかありません。発表に挑みました。無我夢中で概要を発表し、まあ何とかかなるものだなあと、改めて思いました。今になって考えてみると、「何かかな」と思えたのは、私を苦しめた教職員集まりが、やるべきことを徹底的にやったからなのではないでしょうか。「人事を尽くして天命を待つ」ということが出来たというように感じています。

研究発表会が終わると、ホッと息…とはいきませんでした。ところが、私にとって伊倉小学校は6年目でした。玉名町小学校から数えて玉名市在任期間が15年目となっています。人事異動の取り決めて、同一市町在任15年が上限とされていたのです。そして、私は玉名市最後の年を迎えていたのです。因みに、同一校在任の期間は原則7年です。私の場合、玉名町小学校には、もう11年という訳か9年間お世話になりました。この事を考えると、残された時間を無駄には過ごせませんでした。子供達に「このクラスで良かった」「澤田先生が担任で良かった」「思い出や思い出、記憶でも残るような学級集まりをしていこう」と思ふ。何をすれば子供達が喜ぶか、勉強を頑張るか、それとばかり考えながら時間を過ごしました。

時間が過ぎるのは早いものです。あつという間、10月が来たように感じました。もう少しこの学校にいたいという気持ち半分、次はどこに行くのかという期待半分、不安も少しあったかも知れませんが、校長先生には「少しでも自宅に近い方がいいです。」「希望を伝えていました。玉名市以外の玉名管内の市町は限られています。希望は希望として校長先生に伝えた」「少しでも自宅に近い」「10月10日、淡い期待を抱きつつ、本人内泊を迎えました。

「失礼します。」「澤田先生、申し訳ない。遠慮なした…。」

「はい、よろしくお願いします。」「昔、玉名町立中央小学校です。」

「はい、よろしくお願いします。」「昔、玉名町立中央小学校です。」

通勤の距離が長いのはきついですね。それまでの通勤距離は約20分、中央小学校へは30分あります。それがフレッシュな時代でした。辛いことも知っています。先生方が数年前にいらっしゃったのが心の支えでした。中央小学校に挨拶に行くと、早稲田校舎へ通らなければいけません。(11)